

## 膨張の70年 (PART 2)

### 第3章 膨張の軌跡(続)

#### (2) 1911~1940年

##### ① 辛亥革命 (中国)

1900年に義和団の乱が発生し、8カ国連合軍によって北京が占領される事態が発生し清国の威信が失墜すると改革の必要性が強く求められるようになった。

多くの知識人が武力革命によって清を打倒し共和制を確立しようと国内外で革命団体を組織し活動を始めた。

1904年勃発した日露戦争の主戦場が中立を宣言していた清国内の満州であったこともこの機運を強め、更に日本の勝利は民族独立を目指す革命家たちを勇気づけた。

いち早く興中会を結成(1894)していた孫文は1905年に中核となる団体を団結させ東京で中国同盟会を組織した。・・当時日本には数万人の留学生がいたという・・

1908年以降革命派は秘密裡に軍の内部に革命思想を広めることに重点を移した。

1895~1911年にかけて革命派は何回(10回余)も武装蜂起を企て実行し失敗はしたが思想は中国内に広がり多くの地方で人々の支持を得るようになっていった。

1911年10月10日革命党勢力は、武昌で武装蜂起し、これに呼応した漢陽、漢口の勢力と合わせ10月12日には武漢三鎮を勢力下に収めた。

その後各省の革命勢力が次々と独立を成し遂げ、孫文の帰国後行われた12月選挙で彼が中華民国初代臨時大總統に選出され1912年1月1日南京で建国を宣言した。

##### ② 21カ条要求

北京の清国内閣総理大臣の袁世凱は、イギリス領事の斡旋の下で内戦を避けて、宣統帝退位による帝政廃止と列強勢力の介入阻止を条件として孫文たちの同意を取り付け3月に北京で中華民国第2代大總統に就任し中国の帝政は終焉した。

日本は1915年1月(第1次世界大戦中)まだ弱体な北京政府に対し中国における利権(満蒙における特殊権益・・等)についての要求や希望21カ条をだしたが内容が知られるにつれ中国内での反対・暴動のみならず、英米等列強からの不承認・不賛成の意向が示され、日本は内容を一部削除し2条約13か条(交換公文)にしたうえで5月までの最後通告とし袁世凱はこれを受け入れた。

しかし中国国民はこれを非難し受託日(5/9)を「国恥記念日」と呼んだ。

やがてこれら条約の継続有効（日本主張）と破棄無効（中国主張）をめぐる争いが宣戦布告なき戦争への導火線となっていくのである。

### ③ 満州（日本の進出と建国）

日露戦争後日本は満州南部の鉄道経営権、これに伴う炭鉱の採掘権、鴨緑江右岸の森林伐採権とこれらを守るための軍隊駐屯権を得た。（関東軍とよばれ70万人規模に達した）

満州はやがて 1) 国防のための最大の防衛線 2) 資源供給地（鉄、石炭・・・） 3) 移民政策地（約50万人）という3つの大きな役割から日本の生命線と位置付けられた。

中国では、1913年国会選挙が行われ国民党が第1党となり、宋教仁内閣の組閣準備が進められたが宋は袁世凱の手のものに暗殺され、その後袁世凱も大方の支持を失い間もなく（1916）死亡した。

中国の政治情勢は分断と動乱、軍閥割拠の時代となっていた。

満州にあたる東三省は袁世凱の勢力圏であったが、彼の死後、日本の後押しもあって張作霖が実効支配するようになった。

その後、国民政府（南京）が力をつけ全国統一のため北伐を開始すると日本軍は張作霖を爆殺し1929年に国民政府を中華民国の代表政府として正式承認した。

1931年奉天に近い柳条湖で南満州鉄道の線路爆破事件（柳条湖事件）が発生しこれに端を発して満州事変が勃発。関東軍によって満州全土が占領された。

その後関東軍主導のもとに同地域は中華民国からの独立を宣言し1932年3月“満州国”と命名された。

建国にあたって満州国は自らを満州民族と漢民族、蒙古民族からなる「満州人」によって民族自決の原則に基づく国民国家であるとし、理念としては五族（満州人・日本人・漢人・朝鮮人・蒙古人）協和と王道楽土を掲げ元首には清朝最後の皇帝・愛新覺羅溥儀が就任した。

しかし実態は建国以来日本（特に関東軍）と南満州鉄道の強い影響下にあり、「日本と不可分の関係にある独立国家」と位置付けられ、国際連盟加盟国の多くは満州地域を法的には中華民国の主権下にあるべきとした。

中国の提訴を受けて1932年（3～6月）満州を調査した国際連盟派遣のリットン

調査団も「満州の地域は完全に中国の一部で政権も純粹かつ自発的な独立運動によって出現したものとは考えられない」とした。

#### ④ 日本の孤立

この時期、世界の趨勢は、第1次世界大戦中の1917年にロシア革命。20年に国際連盟発足。22年にワシントン軍縮会議とこれに伴う日英同盟の解消。28年にパリ不戦条約（日本も調印）。31年にロンドン海軍軍縮会議が開かれる等戦争回避の方向に向かっていた。

日本では逆に新聞社が陸軍省と結託して戦争を煽りながら売り上げを伸ばしていた。1932年永井荷風は日記で朝日新聞について「軍閥謳歌をなすに至りしこと言論の自由損ぜざるなり」と書いている。

満州で日本がぐんぐん勢力を広げているとき中国本土では、南京には蒋介石の国民政府、その一派として南の広東に汪兆銘の政府、更に勢力を伸ばしてきた共産党とが勢力争いを行っていた。

因みに共産党は各地で結成されていた共産主義組織を1921年上海で第1回党大会を開いて一つにまとめ上げ、以後コミンテルンの指導をえて何度も中国革命を企て、都市部の労働者が南京政府軍隊に鎮圧されてきたが、毛沢東が農村を対象とした活動に重点を置き換えてからは各地で勢力を伸ばしていた。

中国本土では、民衆、特に若い人たちが蒋介石や汪兆銘ら政府のやり方に猛反対し“日本は侵略国家であるから撃退すべし”という大運動をおこした。

学生等が次々と蜂起しデモは上海、北京、南京、広東・・・と全国にひろがっていった。

“満州の現状は1928年の不戦条約締結時とは全く異なり、日本の違反は怪しからん”ということで国際連盟が1933年2月日本の満州からの撤退勧告を行い42対1（反対は日本のみ）で採択した。

ところが驚いたことに日本では新聞が「42対1」を素晴らしいことと褒め上げ、松岡全権大使を「今日日本にこれほどの英雄はない」ともちあげたという。

日本は1933年3月国際連盟を脱退し世界の情報の肝心な部分が入ってこなくなり孤立を深めていったが、国内ではこれを“栄光ある孤立”を選んだと報じ、鬱屈した孤立感と同時に排外的な思いを強め「攘夷」思想に後押しされた国民的熱狂が始まった。

日本陸軍は「皇軍」、日本は「皇国」、日本人の精神の基本は「皇道＝天皇を守る道」で日本は世界に冠たる国である（荒木陸軍大臣）ということが盛んに言われるようになった。

#### ⑤ 三国同盟締結まで

共産勢力の脅威にさらされていた蒋介石は、抗日を口にすることを禁じ、日本が満州国の緩衝地熱河省を制圧した際に塘沽協定（日本軍と中国軍との間の停戦協定：1933年5月）を締結し満州事変の軍事的衝突を停止させた。

共産党は1935年周恩来が張学良と会談し従来の「抗日救国」「反蔣抗日」から「停戦議和一致抗日」に方針を変え1936年の西安事件（張学良らによる蒋介石監禁事件）を経て、1937年初頭に国共合作が事実上成立した。

1937年7月の盧溝橋事件、8月の第二次上海事変勃発により日中全面戦争が始まった。

（注：第一次上海事変はローカル紛争で1932年1月勃発、5月に停戦協定締結）

8月、日本は従来の不拡大方針を放棄、戦時体制の準備を講ずると閣議決定。中国はソ連と不可侵条約を締結：ソ連は5年間日本と不可侵条約を締結せずと約束。

9月、（中国）国民政府は日本軍の行為を国際連盟に提訴。国際連盟は日本軍による中国都市への空爆非難を満場一致で決議した。

11月、国民政府は重慶に逃れて抗日戦を続け、日本軍は12月に南京を占領（南京事件が発生）した。

戦争は長期化の様相を呈し、泥沼化していった。

1938年1月 日本政府（近衛首相）は「国民政府を相手とせず」の声明を出し日中和平工作が打ち切られた。

続いて 日本は南京に中華民国維新政府を樹立させ、日本の目的は「東亜永遠の安定を確保すべき新秩序の建設にあり」との声明を出した。

1939年5月ノモンハン事件勃発（日ソ武力衝突）・・・内容省略

欧州ではドイツとソ連が8月に不可侵条約を締結し、両国は9月にポーランドへ侵攻。イギリス・フランスがドイツに宣戦布告し第2次世界大戦が始まった。

・・・欧州戦線内容省略

日本は1940年に日独伊三国同盟を締結し英米を主軸とする連合国との対立が深まった。

## 第4章 喪失へ

### ① アメリカの対日禁輸他

アメリカは、1940年8月に石油製品などの輸出を許可制に変え、10月には屑鉄の輸出禁止にするなど次々と禁輸攻勢を打ち出した。さらに中立法を緩和して1941年から終戦に至るまで、中華民国、イギリス、ソ連、フランスその他連合国に大量の戦闘機・武器・軍需物資を供給し続けた。

加えて蒋介石の要請を受けて軍事介入（義勇軍・飛行隊）を開始した。

### ② 南進論

日本は南進論（石油を求めて仏印と蘭領東インドへ）を策定・進駐したが石油は得られず、むしろ対日経済制裁（A B C D包囲網）を強化させることになった。

### ③ ハル・ノート

1941年11月アメリカから日本に提示された交渉文書（正式名：合衆国及び日本国間協定の基礎概略：米側交渉担当ハル国務長官）で「最恵国待遇を基礎とする通商条約再締結のための交渉の開始」等日本にとって有利な内容のものもあったが「仏印の領土主権尊重」、「日独伊三国同盟からの離脱」「中国大陸からの全面撤退」といった条項があり全体として受け入れ難いものであった。

日本側は事実上の最後通牒と誤訳・解釈し打開策なしとの結論を出した。

### ④ 開戦と緒戦

12月8日日本の宣戦布告と日本軍のマレー方面と真珠湾攻撃によって太平洋戦争が始まった。

日本陸軍は12日に香港島を攻撃開始し18日で攻略完了した。

海軍はアメリカ、カナダに対する通商破壊戦を行い西海岸の住民を恐怖させた。

1942年初頭、オランダ植民地政府を相手にボルネオ、ジャワ、スマトラなどで連合軍と戦い勝利を収めた。

2月にはシンガポールを陥落させオーストラリア空爆も行った。

アメリカ領フィリピンは4月にバターン半島を攻略しさらにコレヒドールで極東陸軍司令官マッカーサーを敗走させた。

6月にアラスカ準州のアッツ島を占領したが、海軍は6月にミッドウェーで初の敗北となった。

### ⑤ 退勢の兆し（1943年）

9月イタリアが連合国に降伏し、10月にはニューギニア戦線で日本軍が退勢となり

ラバウルが孤立した。

補給の続かない日本軍は広範囲で後退を余儀なくされていった。

## ⑥ 敗北（国力の差）

1944年6月以降、サイパン島、テニアン島、グアム島が次々に陥落し米軍大型爆撃機（B29）による本土爆撃が迫ってきたため日本では学童疎開が始まった。

実際に11月からテニアン島の基地から飛び立ったB29が首都圏を爆撃した。

日本の生産設備能力は連合国に比べて非常に低く、また輸入に頼っていた資源（石油、鉄鉱石等）も連合軍による通商破壊戦で多くの船団を失ったため手に入らず、艦船を動かす重油の供給もままならない状況であった。

局部的には神風特別攻撃隊等が戦果を挙げたが圧倒的な火力・大戦力で押し寄せるアメリカ軍に対して日本軍は敗走をかさねた。

1945年になると日本は南方の要所であるフィリピンの大半を失い南方からの輸入に頼っていた食料も輸送困難となり国民は飢えていった。

欧州では4月にヒトラーが自殺し、5月にはドイツが連合国に降伏した

トルーマン大統領は日本本土進攻による犠牲者を減らす目的と日本の降伏を急がせる目的から原子爆弾の使用を決定し8月6日広島市へ投下した。

中立条約の維持を唯一の根拠として和平交渉に頼みの綱と考えていたソ連が8月8日に対日宣戦布告を行った。

9日に長崎市に原子爆弾が投下された。

15日昭和天皇は正午のラジオ放送で、日本の全国民と全軍にポツダム宣言受諾と日本の敗戦を表明し、日本軍の戦闘行為は停止された。

## ⑦ 喪失

日本はポツダム宣言8条

“日本国の主権は本州、北海道、九州及び四国ならびに我々の決定する諸小島の限らなければならない” によって70年間に膨張した国土、權益をすべて失った。

完

## 追記（余談）

“ポツダム宣言”

1945年7月17日から8月2日にかけて、ベルリン郊外のポツダムにおいて英国、米国、ソ連の首脳（チャーチル、トルーマン、スターリン）が集まり、第二次世界大戦の戦後処理について話し合った。（ポツダム会談）

宣言文の大部分はアメリカによって作成され署名もトルーマンが三人分（自分、チャーチル、蒋介石）行った。

\* チャーチルは総選挙のため帰国中。 蒋介石は無線了承。 事後報告を受けたスターリンは署名していなかったが、8月9日、日本への侵攻と同時に署名した。

1945年8月14日日本は宣言の受諾を連合国に通告。8月15日国民に発表された。（玉音放送）

9月2日東京湾内に停泊中の戦艦ミズーリ号の甲板でこの宣言条項の誠実な履行等を定めた降伏文書（休戦協定）に日本及び連合国の各国代表が調印し、外交文書として固定された。

## 参考文献

Wikipedia

日本近代史	遠山茂樹
昭和史（上）	半藤一利
世界の歴史がわかる本	綿引弘
世界史（上）（下）	W・H・マクニール
戦争の論理	加藤陽子 勁草書房
徴兵制と近代日本	吉川弘文館
戦争の日本近現代史	加藤陽子 講談社 現代新書
満州事変から日中戦争へ	岩波新書
それでも日本人は戦争を選んだ	朝日出版社
.....	他

国名	建国・独立	旧宗主国	経緯	関与（日本）
中華民国 中華人民共和国	1912. 1 1949. 10	清国 政権交代	辛亥革命：孫文 内戦：蒋介石 vs 毛沢東	21か条要求：袁世凱 満州建国：愛新覚羅溥儀 南京政府：汪兆銘
フィリピン	1899. 1（I共和） 1943. 10（II共和） 1946. 7（III共和）	スペイン アメリカ	米・西戦争 ホセ・リサール独立運動→アギナルド 米・比戦争→米の植民地 太平洋戦争 日本敗北 ロハス	日本占領下 ラウレル
インド	1947. 8	イギリス	独立運動 ガンディー、ボース	インパール作戦（ボース参加）
インドネシア	1945. 8	オランダ	スカルノ救出、 独立準備調査会	日本占領下 対オランダ戦争
マレーシア	1957. 8	イギリス	国家統一が遅かった ラーマン cf.ボルネオ等併合1963.9	
シンガポール	1965. 8	マレーシア から	国会で議決 リークアンユー	1942. 2 日本が占領（昭南島）終戦後日本人退去